

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文学部	3
2. 教育学部	5
3. 経法学部	7
4. 理学部	10
5. 医学部	12
6. 工学部	14
7. 農学部、農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	17
8. 繊維学部	20
9. 人文科学研究科	23
10. 教育学研究科	25
11. 高度教職実践専攻	28
12. 経済・社会政策科学研究科	30
13. 医学系研究科	32
14. 総合理工学研究科	35
15. 総合医理工学研究科	38

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経法学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
工学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
農学部、農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
繊維学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
高度教職実践専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済・社会政策科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
総合理工学研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
総合医理工学研究科	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある

1. 人文学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学生が各自の将来の方向性を見据えて他分野の教員の専門領域を横断的に学修することができるよう、広域履修プログラムを新たに設置し、「グローバル社会実践者プログラム」「地域社会実践者プログラム」「表現文化学プログラム」「アジアのなかの日本学プログラム」「人間科学プログラム」からいずれかを選択できるようにした。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

2. 教育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭との協力のもと、実践的な知の体系としての「臨床の知」を核とした体系的な実践力の育成を目指している。そのため、臨床経験科目が1年次から4年次まで段階的に配置されている。
- 信州大学ポータルサイト「ACSU」内の授業支援システムのeALPSに講義資料をアップロードする、小テストや中間試験を実施する、eALPSのメール機能を用いて小テストの解説を学生に送付するなど、授業外学習を促す様々な工夫がされている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 学生の満足度調査において、「臨床の知」の理念に基づいた授業科目が「十分あった」および「まあまああった」との合計回答は平均で88.9%と高い値を示した。「附属学校園の活用」に即した授業科目が「十分あった」および「まあまああった」との合計回答は平均で89.3%と、高い満足度を示している。「地域社会との連携」については、その目的に即した授業科目が「十分あった」および「まあまああった」との合計回答は、平均80.3%と高い値を示した。平成24年度～平成27年度の調査では6割程度であったことから、かなりの改善が図られた。

3. 経法学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 8)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 9)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 分野横断型科目として、自然科学では保険数理分野、医療・健康分野、環境・都市テクノロジー分野を中心に合計 12 科目開講し、隣接科学では応用経済学科は総合法律学科の一部専門科目、総合法律学科は応用経済学科の一部専門科目を、それぞれの専門科目として履修できる構成をとっている。
- 教員による学生面談の実施マニュアルを用意すると共に、学科ごとに教員による学生面談の実施方法を定め、1 年次と 3 年次に全ての学生を対象として教員が面談を実施し、学修状況や生活面での相談を受けている。1 年次と 3 年次の面談では、面談記録を作成している。
- 応用経済学科の経済学演習、および総合法律学科の専門演習については、評点 90～100 点に相当する秀 (S) の成績をつける際には、学生ごとに「専門演習成績評価理由書」を作成して教務委員会に提出することが義務づけられている。
- グローバル化に対応した社会科学の実践的教育の質の向上を図るために、平成 29 年度から海外インターンシップ研修を実施してきた。タイ研修には平成 29 年度 4 名、平成 30 年度 3 名、令和元年度 5 名の参加が、マレーシア研修には平成 29 年度 3 名、平成 30 年度 5 名、令和元年度 5 名（予定）の参加が、スリランカ研修には平成 30 年度 3 名の参加者があった。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 応用経済学科では、21 世紀型スキルのひとつとされる統計学については、統計学Ⅰ及びⅡを必修科目とし、統計検定（JSSC：一般財団法人統計質保証推進協会実施／一般社団法人日本統計協会認定）の合格に向けた授業を展開している。

4. 理学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 11)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 11)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 授業時間外の学習を支援する方策として、平成 30 年度末に学生学修ルームを新設し、既存の教室の使用とあわせて、2～3年生向けに複数のサイエンスラウンジ（数学、物理、化学）、1年生向けに数学茶屋「峠」をひらいている。ここでは、大学院生及び学部生アドバイザー2～3名が質問を受け付け、学修共同グループの構築を目指している。
- 高大連携事業の1つとして、信州サイエンスキャンプ事業を実施しており、3つのイベントを開催している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

5. 医学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 13)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 13)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 医学科において「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」プログラムにより実践的な医師の養成に積極的に取り組んでいる。具体的には世界標準の臨床自習時間確保と教育協力病院の複数選択可、診療参加型実習（クリニカルクラークシップ）を継続している。
- 実務者による直接的な講習として地域病院の医師、医療事故被害者、弁護士、刑務所医務課長を講師として招き、地域医療や医療事故、医療訴訟の実情や矯正医学について現場に即した学習機会を設けている。
- 臨床実習「クリニカルクラークシップⅠ」が終了した際に、信州大学独自のMid-termOSCEと5年生総合試験を実施し、150通りの選択肢からなる参加型臨床実習において、地域病院で実習を行うだけの知識や臨床能力を備えているか調査するとともに、臨床実習終了後OSCEを実施し、卒業時に必要な能力・技能を修得しているかについても的確に把握している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 保健学科では、隔年で、「卒業生を迎えての懇談会」を実施している。保健学科では、卒業後のリアリティショックを緩和するためのアンケート調査を卒業生に実施している。

6. 工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 15)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 16)

分析項目 I 教育活動の状況**〔判定〕 相応の質にある****〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- グローバルに活動できる人材育成を目的とした活動として、英語担当教員がまとめ役となり、工学部の日本人学生、留学生と一緒にグローバルな課題を英語で議論する Global Café という活動を実施している。平成 30 年度より学内支援を受け、国連の持続可能な開発目標である SDGs に関連した課題を扱っている。Global Café は月曜 5 限目に 60 分間行っており、令和元年度のコアメンバーは日本人学生 8 名、留学生 12 名であった。Global Café は、工学部学生だけでなく、近隣の大学の学生、高等学校の生徒にも門戸を開いている。
- 平成 30 年度に、グローバル環境で、組織のコア人材として活躍できる素養、能力、知識を身につけ、主体的に協働できる人材の養成を目的に、全学横断特別教育プログラムとしてグローバルコア人材養成コースを開講した。同コースは、日本・海外について学び、異文化理解力を高め短期海外研修を経験し、グローバルマインドの獲得を目指す Basic コースと、自分の専門について深く学び、自律型海外研修を経験し、自らの成長や資質を客観的に評価することで、グローバル環境において活躍できる実践的スキルを身につける Advanced コースの 2 つから構成されている。前者では短期海外研修、後者では自律型海外研修がカリキュラムに含まれており、グローバルマインドを獲得した人材養成が期待される。また、同コースのグローバルコア人材養成科目群、学部専門科目群の科目は、多くの学部で開講され、工学部でも開講した。
- 政府や自治体による航空機産業振興が推進される中、飯田・下伊那地域の自治体や地元企業の要請のもと、人材育成や研究開発を目的とし、平成 28 年に南信州広域連合、飯田市、長野県、地元企業を会員とする「信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム」が設立された。翌年の平成 29 年に飯田市に大学のサテライトキャンパスを設置し、「航空機システム共同研究講座」を開設した。この講座は学部 4 年生から工学部の学生を受け入れており、地元自治体、地元企業、JAXA などの研究機関、他大学等と連携し、人材育成にあたっている。
- 平成 29 年度に、地域社会の現場（ローカル）が抱える問題を的確に分析し、革新的（イノベティブ）な解決策を考え、実践する人材の養成を目的に、全

学横断特別教育プログラムとしてローカル・イノベーター養成コースを開講した。同コースは長野県、長野県経営者協会、長野県商工会議所連合会、長野県中小企業団体中央会等と協働して実施している。特に、平成 30 年度は専用科目「イノベーション・リテラシーゼミ」として、軽井沢地域の企業 4 社へヒアリング等を行い、それをもとに問題分析、課題設定、解決策の発表を実施した。また、同コースの認定科目は多くの学部で開講され、工学部でも開講した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 研究室の活動とは異なるもので、学生自ら企画・立案し参加した大会、コンテストでの活躍として、NHK 学生ロボコン、国際大学プログラミングコンテスト ACM-ICPC、ISUCON 6、ICT トラブルシューティングコンテスト、World Robot Challenge 2018 ものづくりカテゴリー、国際建築設計コンペティションにおいて優秀な成績を収めている。これらの活躍は大学からも表彰されている。
- 信州大学は環境活動に力を入れており、工学部に環境学生委員会を設置し、外部の活動に参加している。平成 28 年度から平成 30 年度の活動として、特に「信州中野環境祭」、「ながの環境団体大集合」は、工学部の学生が複数参加し、環境の啓発活動に協力している。

7. 農学部、農学部附属アルプス圏 フィールド科学教育研究センター

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況	……………	18)
(分析項目Ⅱ 教育成果の状況	……………	19)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- グローバル系科目においては、1～2年次は「フレッシュマン・アカデミックイングリッシュⅠ、Ⅱ、アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ」等による英語力の向上、また、「国際農学概論」、3年次の「科学英語Ⅰ、Ⅱ」による国際性と専門性を涵養したグローバルな感覚の育成、4年次の「専攻研究・演習」、各コースで開講されている英語での講義「Life Science 科目」等における英語学術論文の講読や英語でのプレゼンテーション等を通じて一定水準以上の外国語運用能力を培っている。これにより、学生のグローバルへの意識は非常に高くなり、第2期中期目標期間終了年度である平成27年度の30名に比べ、平成30年度では約2倍の51名が留学をしている。

〔特色ある点〕

- 信州大学農学部野辺山ステーション農場は平成29年度に、農学部演習林は平成30年度に、共に教育関係共同利用拠点として再認定され、学生の習熟レベル等に応じ、農学部開講・共学型プログラム、注文型プログラム（他学部や他大学等からの相談に応じて構築、指導するプログラム）等を、信州大学、他大学の学生、教員に提供している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 平成 29 年度に実施した、農学部卒業生及び農学研究科修了生の就職先である企業等 472 社を対象とした人事担当者向けアンケートの結果、12 項目あるアンケート項目のうち 8 項目については、半数以上の企業が 5 段階評価で 4 ポイント以上と高い評価をしている。特に、各社が最も重視する「チームワーク人間関係能力」、「コミュニケーション能力」及び「主体性・実行力・倫理観」において、5 段階評価平均でそれぞれ、「3.93」、「3.98」、「3.81」という高い評価を得た。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度、平成 29 年度及び平成 30 年度卒業アンケートでは、専門教育に関する学部の課程の総合的な満足度において、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した割合は 84%～85%台と高い評価であった。

8. 繊維学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 21)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 22)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況**〔判定〕 相応の質にある****〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「ものづくり経営Ⅰ」「ものづくり経営Ⅱ」（繊維学部共通科目、3年次配当）を開講している。これらの講義は「ものづくり」を想定した経営学を通じ、企業におけるCTO（Chief Technology Officer）の養成を想定して行う。生産の種別や原価、納期、スケジューリング、品質管理、マーケティング、購買、開発、設備投資、国際、財務、情報システムなどの事項に扱いながら、製造業経営を鳥瞰する。このような経営教育は企業内教育で管理職適齢期に用意される傾向にあるが、グローバルとITCが進み、工学系出身者の職域は拡大した現代ではこうした知識は早期に知っておいた方が有利と考えている。令和元年度、それぞれの講義の履修生は、198名（ものづくり経営Ⅰ）、115名（ものづくり経営Ⅱ）である。
- 2年次英語教育（アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ）では、TOEIC-IPテストを用いて受講生の習熟度を可視化・クラス分けし、習熟度別クラスとすることで効果的な学習指導が行えるようにしている。また、クラスでは、e-Learning上のテスト機能を用いて学期中の学習成果を定期的にチェック（可視化）し、学習指導を行っている。
- 学科横断の教育プログラムとして、「国際連携」、「ファッション工学」、「先進複合材料工学」、3つを設定している。2年次後期に選抜を行い、3年次、4年次に学科・コース教育と合わせて学科横断教育プログラムを受講する。令和元年度、それぞれのコースの履修生は、10名（国際連携）、18名（ファッション工学）、19名（先進複合材料工学）である。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度に実施した企業人事担当者・リクルーターアンケートの結果、
（1）さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信（異文化理解）能力、（2）深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力が比較的高く評価された。また、繊維関連の教育、異分野（理工や農工）が連携した教育が魅力的との意見があった。

9. 人文科学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 24)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 24)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 第3期中期目標期間における修士課程の修了生のうち、平成28年度は42.9%が就職したのに対し、平成29年度は80%が就職し、比率として向上している。

10. 教育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 26)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 27)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 学校教育専攻臨床心理学専修では、県教育委員会との連携により LINE 相談のピア相談員を担当している。また、少年鑑別所での運動指導ボランティアにおいては、継続的な取組みが評価され、法務省から東京矯正管区長表彰を受けた。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度から、学校教育専攻共通で選択演習科目「学校臨床演習」を新たに開設した。これは、年間を通して、計 120～160 時間、教育学部附属学校園（長野地区 3 校）で臨床実習を行うものである。学級運営の補助や教育実習生のメンターを通して、学校現場の現実課題や実践的課題に実際に参画し、教育実習とは異なる演習科目に取り組ませている。
- 先進的な教育実践に触れる機会を提供するために視察プログラムを実施した。平成 28 年度はオランダ、イタリアの学校を訪問し、平成 30 年度はスウェーデンの学校を訪問した。信州大学と岡山大学との共同開催で、教育学部生と教育学研究科大学院生を東南アジアへ 1 週間短期海外派遣し、現地の小学校・中等教育学校において英語で授業をする海外教育実践インターンシッププログラムを実施した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 毎年度大学院修士課程修了直前に、大学院教育学研究科のあり方に関するアンケート調査を実施している。「指定以外の指導教員の指導に基づく授業科目の内容」に関して、肯定的回答の中でも特に十分満足と回答したのが平成 28 年度は 52.2%であったのに対し、平成 30 年度は 86.7%まで増加し、専門に偏らない授業を高い満足度をもって履修できたことがうかがえる。

11. 高度教職実践専攻

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 29)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 29)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 選択科目「教育課題特別演習Ⅱ」「授業課題特別演習Ⅱ」において、学習成果の発表の一環として学会発表に臨む機会を設けている。特に、平成 29 年度に世界授業研究学会（World Association of Lesson Studies、WALS2017）において、現職教員院生が査読付き英語発表を行い、世界の教育研究者や実践家の前で高度教職実践専攻での学修の成果を発表した。

12. 経済・社会政策科学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 31)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 31)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 佐久穂町関係者等と連携した地域活性化ワークショップを事実上の必修として位置づけて毎年開講。このほか、地域課題に取り組む修了生や東北復興など他地域他大学等と連携したテーマ研究ワークショップを4回開講。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

13. 医学系研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 33)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 34)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 実習を通して装用前のカウンセリングから装用後のリハビリテーションまでの一連の流れを把握した人材の育成を目的とする人工内耳コース、麻酔に関する正しい知識と高度な技術を有し、麻酔科医とともに周術期の患者を安全に管理できる周麻酔期高度実践看護師の養成を目的とする高度実践看護師コースを設置している。
- 多種多様な領域の遺伝カウンセリングへの同席や、少人数・対話形式の勉強会を通じて、臨床医学、遺伝学、倫理などの遺伝カウンセラーに必要な知識を学ぶことのできる「遺伝カウンセリングコース」を構築している。
- 医科学専攻では医科学を学ぶための一つとして、自然科学でも特異な位置にあるところを心理学、精神医学の側面から深く理解する人間こころ心理学概論を必修科目として、保健学専攻では世界的な健康問題と健康専門家の国際的な連携について調査する国際保健論を専攻共通科目として設置している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

第3期中期目標期間において、学生による学会発表56件、論文発表19件（うち欧文論文16件）となっている。また、学生が9件の学会賞あるいは助成金を獲得している。

〔優れた点〕

- 医学系研究科では、第3期中期目標期間において大学院生による研究業績を多数有する。学会発表は平成28年度19件、平成29年度21件、平成30年度11件、令和元年度5件、論文発表は、平成28年度4件（うち3件が欧文論文）、平成29年度7件（うち6件が欧文論文）、平成30年度7件（うち6件が欧文論文）、令和元年度1件（うち1件が欧文論文）である。入学定員が26名という小規模な研究科であるが、高頻度で優れた研究実績が蓄積している。
- 医学系研究科では、大学院生が、平成28、平成29年度に「日本臨床化学会YIA賞」、平成30年度に「第23回日本輸血・細胞治療学会学術奨励賞」、「第58回日本臨床化学会年次学術集会トラベルアワード」、「Applied and Environmental Microbiology Journal highlighting research articles」、「第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 優秀発表賞」、令和元年度に「令和元年度臨床検査医学会 優秀論文賞」、「第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会 優秀演題賞、最優秀賞」を受賞している。その他平成29年度に「長野県科学振興会助成金」に採用され、大学院生ながら研究費を獲得した者がいる。

14. 総合理工学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 36)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 37)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムを設置し、広い科学技術的視野と国際的視野などを備えた、主に産業界で活躍する人材育成を国内外の諸機関と連携した取組により実施しており、令和元年度は9名のプログラム修了生を輩出している。

〔優れた点〕

- 繊維・ファイバー工学分野における高度かつ総合的な専門性を有し、広い科学技術的視野と国際的視野、分野間のコーディネート力、技術力だけでなく人間力を見抜く力を備えた、主に産業界で活躍する「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダー」を5年間一貫で養成することを目的に、国内外の諸機関と連携した教育プログラムを確固たる指導体制の下で実施した。定められた審査に合格し、2名が修士号取得し博士課程に進級した（令和元年度）。令和元年度は9名のプログラム修了生を輩出し、これまでに14名のプログラム修了生（博士号取得）を輩出している。

〔特色ある点〕

- 大学院人材育成センターを設置し、総合医理工学研究科（博士課程）、総合理工学研究科（修士課程）在籍の学生に、センターを通じて企業でのインターンシップを支援し、幅広い知見・経験・人間力などの向上をサポートしている。その結果、良好なマッチング（インターンシップ先企業への就職率：41%）を実現している。
- 理学専攻では日本人学生が英語によって留学生と交流するインターナショナル茶屋（英語による発表と質疑応答、懇親会）を継続実施している。
- 工学専攻では英語教育の一環として、学生の英会話力を高めるため Global Café という活動を行ってきた。令和元年度からは、さらにこの活動を発展させ、学生の隙間時間を活かし、Chat という活動を開始した。さらに、令和元年度は海外への短期留学やインターンシップに参加する学生向けに「One Day Practical English Workshop」講座を開催し（13名の学生が参加）、学生の海外活動のサポートを行った。
- 農学専攻ではラボでの研究をそのままフィールドで試すことができる恵まれ

た立地環境を活かし、地域連携の核となる附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（AFC）及び伊那谷アグリイノベーション推進機構（伊那谷 AIS）を推進母体として、さらなる地域連携事業の拡大を図っている。具体的には、社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置として、伊那谷 AIS 設置の6つの勉強会等を中心とした「地域との対話の場」を設定することで地域との教育・研究活動の強化を図っている。伊那谷 AIS 会員企業等数は平成30年度は前年比2社増の70社、伊那谷 AIS 勉強会は同様に2件増の5件、また農学専攻（農学部）を中心とした産学官連携プラットフォームによる技術紹介は平成30年度4件実施した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

15. 総合医理工学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 39)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 39)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学位論文の審査委員会は、信州大学教員（主査1名、副査2名）だけでなく、他大学教員等の外部審査員（副査1名）を含む委員で組織され、2回の審査（一次審査／予備審査・二次審査／本審査）と最終試験を経て、厳格に審査がなされている。
- 現職の医師向けに、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成することを目的とする「ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース」を設置している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

就職希望者の就職先として「医療・福祉」分野が90%以上を占め、その80%以上が長野県内に就職している。

〔優れた点〕

- 就職者は、80%以上が長野県内に就職する。地域医療に一定割合以上に高度な人材を輩出しており、総合医理工学研究科医学系専攻の設置目的を果たす特記すべき状況である。